

第 143 号

Björk

—ビョルク(白樺)—



4月20日(土)～6月30日(日)にかけて開催された、ヴェヴネーテット・ダーラナ織物作品展『白樺と桜』。展示会初日と翌日21日(日)におこなわれたオープニングイベントとワークショップには、多くの方にお越しいただきました。

「Sweden today: a diverse work force スウェーデンの今：多様性のある労働力」

..... スウェーデン公使参事官 ヴィクトリア・フォシュルンド=ベラス	2
令和元年度定時評議員会・第1回理事会報告	5
インタビュー「ブレケル・オスカル」(前編)	10
連載寄稿「スウェーデンの現在」⑦	ソフィア・マルム 14

一般財団法人スウェーデン交流センター (理事長 内野 貢)

〒061-3777 北海道石狩郡当別町スウェーデンヒルズ・ビレッジ2丁目3番1

TEL 0133-26-2360 FAX 0133-26-2992

<http://www.swedishcenter.or.jp/> e-mail: info@swedishcenter.or.jp

2019年5月28日開催 スウェーデン・セミナー

ヴィクトリア・フォシュルンド=ベラス

スウェーデン公使参事官 講演

Sweden today: a diverse work force スウェーデンの今: 多様性のある労働力

日時: 令和元年5月28日(火) 会場: 札幌プリンスホテル 国際館パミール

共催: 一般財団法人スウェーデン交流センター、

公益社団法人北海道国際交流・協力総合センター

講演通訳: 川内 裕子氏



5月28日(火)に、札幌プリンスホテルにてスウェーデン大使館よりヴィクトリア・フォシュルンド=ベラス公使参事官、北海道スウェーデン協会事務局長の目黒聖直氏、当センター評議員で東海大学名誉教授の川崎一彦氏を迎えての「スウェーデン・セミナー」を開催し、多くの方にご参加いただきました。今回は3名の講演のうち、ベラス公使参事官の講演をご紹介します。



皆様、こんにちは。私はヴィクトリア・フォシュルンド=ベラスと申しまして、在東京スウェーデン大使館で公使参事官を務めております。

今日はこのような会にお招きいただき、また多くの方にお越しいただきまして、大変うれしく思っております。これから30分ほどではありますが、皆様とご一緒できることを楽しみにしております。

日本に暮らすようになって今年で5年目となりまして、今年の夏には離日することになっております。日本ではとても特別な、ワンドルな時間を過ごして参りました。まず最初に皆様に令和の始まりをお祝い申し上げたいと思います。

昨年2018年は特別な年でした。スウェーデンと日本が外交関係樹立150周年を迎えたのです。この150周年は一連の活動を通して、日本とスウェーデンの双方でお祝いされました。その中でハイライトは昨年4月におけるスウェーデン国王陛下と王妃陛下の訪日でありました。

また北海道でもいくつか胸躍る催しがおこなわれました。この機会に皆様の支援に対してお礼を申し上げたいと思います。いろいろな催しがありましたけれども、その中でも札幌と東京の大使館にて行われたスウェーデン交流センター設立35周年記念ガラス・木作品展をはじめ、北海道スウェーデン協会40周年、そして札幌雪まつりにおきまして、大変に光栄なことに、壮大なストックホルム大聖堂が呼び物の一つとなりました。また、札幌と東京でダラナシンフォニエッタのコンサートが催されました。スウェーデン交流センターの多大なるご後援に心から感謝申し上げます。

スウェーデンと日本との二国間関係というものは素晴らしいものです。今日までの私の5年間は、日本で生活するには興味深く、思い出に残るものでした。他の多くの国もそうですが、日本は今、幾つかの大きな社会的課題に取り組んでいます。おそらく最も重要なことは国内の人口問題で、それが経済・労働市場・福祉制度に影響を及ぼしているように思います。

これまでの5年間で、今申し上げたようなことに関連して、スウェーデンの現状、それからスウェーデンではどういう解決策があるのかということに対して日本

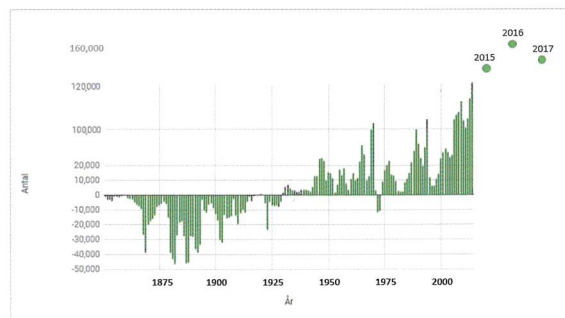
でも関心が高まっていると感じています。スウェーデンの人口動態状況はどのようなものなのか、労働市場は？男女同権は？移民は？ということです。そこで本日はこういった話題に手短に触れようと考えました。ここ日本と関わりのあることだと考えるからです。

第一に、現在のスウェーデンは成長を続ける多文化社会です。変化し続ける社会です。労働力は極めて多様です。

移民のことから話を始めますと、スウェーデンは長い間ずっと移住性の、移民性の国でした。ヴァイキングの時代からずっとです。

100年ほど前のこと、貧困と失業のせいで多くの人がスウェーデンを離れました。ですが1930年以降、状況が逆になりました。

スウェーデンへの移民の数(総数)



Source: Migrationsinfo and Central Bureau of Statistics

提供: スウェーデン大使館

人々が1930年以降スウェーデンに入ってくるようになりました。何度もこのような移民の波がありました。第二次大戦後も、現在も同じですが、世界中の紛争が原因の一つにあります。近年になりますと移民の数が増えています。

現在スウェーデンの総人口における移民の割合は約19パーセントです。これは過去最高の割合であり、いくつか短期的な課題をもたらしています。例えば住宅供給の問題、教育、福祉制度、こういったものが切迫した状況にあります。「融合」、この言葉が極めて重要です。

しかし長期的には移民は負担ではなく、スウェーデン社会に大きなチャンスをもたらすと私たちは考えています。移民により労働者…それも多くの場合は熟練労働者

であり、彼らのノウハウがもたらされます。今のスウェーデンは平均年齢が 41 歳と、似たような他の多くの国と比べて人口が若いのです。ですから、短期的な課題に対応できるならば、私たちはもっとしっかり未来と向き合うことができるのです。

基本的に、移民はスウェーデンの発展に寄与してきました。我が国の戦後の経済成長は、労働者の様々な流入無しには不可能だったと言って差し支えないでしょう。したがって、移民は今のスウェーデンの発展、スウェーデンの福祉を支えてきたのです。

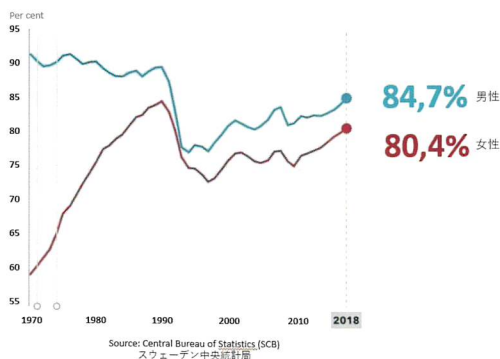
次の話題に移る前に、これは非常に大きな話題なので、ここで指摘しておきたいと思いますが、過去数年における私どもの国への移民のペースは、歴史的に見ても非常に早すぎる、と考えられております。

2016 年、2017 年のあたりに流入のピークがあるのですけれども、2016 年には移民の希望者数が年間 16 万人以上と急増しました。この異常な事態を受け、政府は特別制限措置を導入いたしました。以来、移民申請の数は減っておりまして、2018 年になると 2015 年と同じ水準になりました。

2016 年の移民の流入数に比例する形で福祉財政が圧迫されるようになり、今でもそれは課題となって続いております。また政治的な反発も生まれています。例えば極右政党であるスウェーデン民主党。これは過去の 2 回の選挙におきまして勢力を拡大いたしまして、そして政治的見通しに影響を及ぼすという結果になっております。

2 つめの話題は、『男女同権』の問題です。スウェーデンは世界で最も「男女同権」の進んだ国のひとつとされることが多い国です。これは他の北欧諸国も同じことです。女性の大半は仕事を持っており、父親たちは子育てや家事に積極的な役割を果たすようになっています。では、どのようにしてこのような状況を私たちは手に入れたのでしょうか？ここで手短かにその歴史を要約してみたいと思います。

雇用率（男女別） 1970-2018



提供：スウェーデン大使館

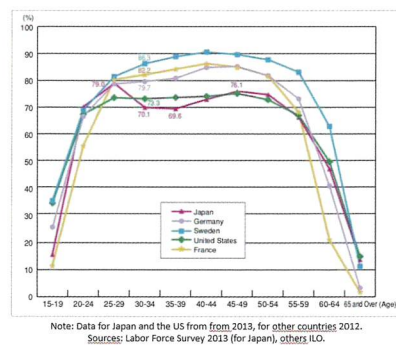
このグラフは、1970 年代以降の就職率を、男女別に示したものです。戦後つまり第二次大戦後の好景気により労働力不足が生じて女性が働く必要がありました。1970 年代と 1980 年代の 4 つの重要な政治改革によりまして、労働市場における女性の全体的な参画が大きく拡大しま

した。その 4 つの重要な改革を手短かにまとめますと、まず第一に、「夫婦に対する総合課税方式の廃止」といったことが 1971 年にありました。それから「所得に基づく育児休暇制度」や「育児休暇後の職場復帰の権利」、「利用しやすくして手ごろな保育」。この 4 つです。

他にも改革は色々ありますけれども、これらの改革が極めて重要でありまして、グラフで分かるような大きな影響をもたらしたわけです。現在、男女の働き方はほぼ同じです。大切なことは、これが年齢に関わらず同じことが言えるということです。

スウェーデンの女性は、一般的に出産後に職場復帰します。次にお見せするこの表は、年齢層ごとの女性の就労率を、他の国をいくつか選んで比較したものです。

女性の労働力参加率



提供：スウェーデン大使館

スウェーデンの場合曲線はとてもなだらかです。スウェーデンでは育児休暇を終えた母親の 90 パーセント以上が職場に復帰します。他の多くの国では一般的に女性が出産する年齢で曲線が落ち込みます。ここで示している青のグラフと赤のグラフの開き、これがスウェーデンと日本との労働市場の大きな違いなのです。

スウェーデンでは、父親が子育てに積極的に関わり、育児休暇を取る人も増えています。まだ対等とはとても言えませんが、良い方向に進んでいます。

もちろん、今でも課題はたくさんあります。例えば職種を見てみますと、非常勤…つまりパート労働市場で女性が多すぎることが分かります。更に申し上げますと、スウェーデンにおける出生率は今でも高いままで、女性一人当たりの子どもの数は、約 1.8 人。これは欧米諸国の中でも高い方です。

一夜にして物事を変えることはできません。そして時間がかかります。しかし、ここで指摘したいのは、スウェーデンにおける道のりというのはかなりスピードが早かった、ということです。1960 年代には働く成人女性は半数未満でした。主婦が一般的で、家族の規範でありました。ですがわずか 30 年後に、働く女性の数がほぼ 2 倍になりました。今ではほぼ全ての女性が仕事をもっています。

『どうしてそこまでたどり着けたのか』とよく訊かれますが、スウェーデン人がもともと他の国の人たちと違うということではありません。男女同権というのは、いくつかの重要な政治改革の結果として生まれたものでありまして、それらの改革は時間をかけて進展してきたのです。



提供：スウェーデン大使館

時間が経てば人の心構え…こういったものは変わってきます。右上に写っている男性は、スウェーデンで人気の高いレスラー、レンナート・“ホア=ホア”・ダールグレンという方です。この方は、1978年の“イクメン”キャンペーンの看板で、育児休暇を促進に貢献しました。また私自身について申し上げますと、「子供さんはいるんですか?」「大使館で大変な仕事とどうやってやりくりしているの?」とよく訊かれます。私はその時は「はい、子どもはいます」、「夫はいます」、「子どもは8歳と10歳がいます」などと答えます。私自身は大使館での仕事をとても楽しんでおりますし、夫には夫の仕事がありますが、家事を分担していて、例えば学校に迎えに行ってくれとか、料理や掃除などもしてくれます。私たちは、この生活を「ライフパズル」と呼んでいます。それは簡単なことではありませんけれども、今のところは上手くいっています。

最後にまとめになりますけれども、多様な人種と労働力があるということが、スウェーデンの今までの道のり、そして経済的な成功に大きく寄与してきました。

女性が働く、フルタイムで長く職に就けるようにすることで、労働力を供給することができましたし、また人口の半分だけではなくて、ほぼすべての知識や技術を利用することができるようになりました。移民によって才能あふれる人がスウェーデンに入り、新しいアイデアがもたらされ、雇用者そして社会全体がそれを利用できるようになります。それによって国際感覚や国際理解がもたらされたのです。スウェーデンがグローバルになりました。

最後に、これまで申し上げたことから言えることは、多様な労働力とは、創造性と革新に続くものということです。いろいろなものの見方と経験が会って融合することでアイデアが生まれます。課題もあるかも知れませんが、それに対処するとしても短期的なことです。多様な労働力は職業人生と社会全体の両方に大きな恩恵をもたらすものと考えています。

質疑応答から

Q:ヨーロッパでは、移民や難民を受け入れるにあたって、各国でコントロールできていないということが、今のEUに対する反発をもたらして、右翼の政党が勢いを増している原因のひとつかなと思います。EUに入っている移民のコントロールができれば良いと思っているのです

が、どうでしょうか?

A:大変に関連性のあるタイムリーなご質問をいただきまして、ありがとうございます。移民の問題というものは大変にホットな問題となっております、スウェーデンでもそうですし、EU加盟国においても非常に政治的議論の場で色々と意見が交わされている話題となっております。

EUのほうでは、まだ共通の戦略というものにはそれに対して見つけられないでいるんですね。移民問題を扱う、将来に向けてどのような解決策が良いのかを見つける、良いバランスを見つけていく、つまり「来たい」という人は誰でも受け入れるというわけにはいかないの、それについては今非常に腐心しているわけですが、それについては共通の解決策を見出してはいないのです。

政治的なことに関して申し上げますと、スウェーデンでは極右に傾倒している人や政党というものはほとんどないと思っています。ほとんどの人はどちらかという中道ですね。これはいろいろな議論の的となっております。欧州議会の選挙がありましたけれども、多くの人は、人が思っているほど極右とかポピュリストとかという人たちはそれほど票数を伸ばしていない、同時にリベラルは票数を伸ばしている、ということもあります。いつもこれには二面性があるというか、二つの見方があるというふうに言えると思います。

Q:スウェーデンでは、「出ていく移民」が「入って来る移民」に1930年に転じていて、それは多分経済の状態が良くなったからだろうと思うんですけども、きっかけになったスウェーデンの政策や戦略というもの何かあれば教えていただきたいと思います。

A:1930年代というのは、仰ったとおりいろいろ大きな変革・変化が経済に起こった時期だというふうに思います。スウェーデンも当時はいわゆる現代国家と言ったものの建国中という、そういう時代であったと思います。いろんな変化がありました、それはマクロレベルだけでなくいろんな所にあり、同じような状況はスウェーデンだけではなくて他の多くの国にもあったと思います。

当時は、現代福祉国家の誕生に向けての動きといったものが生まれてきた時期と重なるというふうに思います。当時の社会民主国家はその当時非常に力を伸ばしていて、その政党が非常にクリアなビジョンを持っていた。つまり、貧困を撲滅して福祉国家を築く、ということです。

講師：ヴィクトリア・フォシュルンド=ベラス

スウェーデン外務省（ストックホルム）アジア局 南東アジア・太平洋地域課主任、副課長としてエストニア・タリンとジンバブエ・ハラレのスウェーデン大使館に勤務。2014年より駐日スウェーデン公使参事官。



一般財団法人スウェーデン交流センター 平成30年度事業報告 / 令和元年度事業計画

令和元年5月28日(火)に評議員会・理事会を開催し、前年度の決算および事業報告、今年度の予算と事業計画が承認されました。内容は以下のとおりとなっております。

平成30年度事業報告

【Ⅰ. 評議員会・理事会の開催状況】

「評議員会」

1. 定時評議員会

日時：平成30年5月24日(木) 13:30～14:15
会場：北海道国際交流・協力総合センター 特別会議室

「理事会」

1. 第1回理事会

日時：平成30年5月24日(木) 14:15～16:00
会場：北海道国際交流・協力総合センター 特別会議室

2. 第2回理事会

日時：平成30年11月30日(金) 10:30～11:30
会場：北海道国際交流・協力総合センター 特別会議室

3. みなし決議に関する平成30年度第3回理事会

日時：平成31年2月18日(月)
内容：(書面による決議事項：定款の改訂)

【Ⅱ. 事業状況】

1. 交流事業

1) 展示会(会場：スウェーデン交流センター センターホール等)

(1) 「SCFダーラヘストコレクション」展

日時：平成30年2月25日(日)～5月7日(月)
入場者：980名

(2) 「ボスク」紹介コーナー

日時：平成30年3月17日(土)～4月30日(月)
入場者：699名

(3) エストヨータテキスティール作品展

「Fyra Årstider フィーラ・オーシュティーデル(四季)
日時：平成30年3月24日(土)～5月7日(月)
来館者：845名

(4) スウェーデンの地域紹介シリーズ⑦「エレブロー」

日時：平成30年5月27日(日)～8月26日(日)
入場者：6,190名

(5) スウェーデン交流センター設立35周年記念事業①

日本・スウェーデン外交関係樹立150周年記念事業協賛
北海道150年事業協賛
「35år(トレッティフェム・オール)ー日瑞ガラス・木工作品展ー」

<当別展>

期間：平成30年9月1日(土)～9月30日(日)
場所：スウェーデン交流センター センターホール
来館者：464名(開館日数25日)

<札幌展>

期間：平成30年10月13日(土)～11月30日(金)
場所：札幌芸術の森 工芸館(札幌市南区)
来館者：6,641名(開館日数35日)

※初日オープニングセレモニー 60名参加

<一般財団法人スウェーデン交流センター設立35周年記念祝賀会>

日時：平成30年10月13日(土) 18:00～20:00
場所：京王プラザホテル札幌 雅の間
参加者：90名

<「35år(トレッティフェム・オール)交流イベント」>

日時：平成30年10月14日(日) 10:00～16:00
場所：スウェーデン交流センター
参加者：延べ119名

<東京展>

期間：平成30年12月5日(水)～12月19日(水)
場所：スウェーデン大使館 ヘルイマンホール(東京都港区六本木)

来館者：約330名

※初日オープニングレセプション 46名参加

(6) スウェーデン交流センター設立35周年記念事業②

「Integrity 独り立つ」フムラン・ランゲ絵画展
期間：平成30年10月6日(土)～11月25日(日)
来館者：594名(開館日数42日)

(7) 「ダーラヘスト SCFコレクション」展

期間：平成31年1月31日(木)～4月14日(日)
入場者：345名

2) イベント

(1) 第35回 夏至祭

当別・レクサンド都市交流協会、当別町と共催。
日時：平成30年6月17日(日) 10:00～15:00
会場：スウェーデン交流センター 中庭
スウェーデン公園、レクサンド記念公園
参加者：3,500名(主催者発表)

(2) ザリガニパーティ

日時：平成30年8月19日(日) 12:00～14:00
会場：スウェーデン交流センター 中庭
参加者：41名

(3) スールストロミング試食会

※9月6日に北海道胆振東部地震が発生し、余震も起きていたことから、参加者の安全を確保するため、中止とした。

(4) 「クップ」普及への取り組み

深川市「まあぶキャンプフェスタ」イベントでのクップ体験コーナー設置に協力し、クップ用具の貸し出しをおこなった。

日時：平成30年6月9日(土)～6月10日(日)
場所：まあぶオートキャンプ場(北海道深川市)

貸出先：深川市役所農政課

参加者：18名

(5) ルシア祭

スウェーデンの冬を代表するお祝い、ルシア祭を開催。ルシア役をSCF職員ソフィアが務め、ヒルズの子どもたちも聖歌隊に参加した。

日時：平成30年12月9日(日) 13:00～17:00
場所：スウェーデン交流センター センターホール
来館者：80名

3) セミナー・講習会

(1) 「フィーカ」

スウェーデンで親しまれている「フィーカ(お茶の時間)」の雰囲気、スウェーデンの様々な話題を提供するイベント。2019年5月実施の「2019年度高校生の短期留学海外姉妹都市ホームステイ研修事業」(主催：当別町)の事前研修としても採用された。

日時：平成30年毎月第3土曜日 14:00～15:30 開催
場所：スウェーデン交流センター センターホール
参加者：43名

参加費：1回につき500円

(2) スウェーデン語会話講座

初心者を対象としてスウェーデン語会話講座を実施。
日時：平成30年4月28日(土)より 全10回
場所：スウェーデン交流センター センターホール
講師：パール・ショーベリ(SCF職員)

参加者：延べ74名

参加費：1回につき500円

(3) スウェーデン・セミナー

スウェーデンの様々な内容をテーマに、SCF職員がセミナー形式でお話した。

日時：平成30年8月25日(土)、10月27日(土)
平成31年1月26日(土)、3月23日(土)

場所：スウェーデン交流センター センターホール
参加者：延べ25名

参加費：1回につき500円

4) アーティスト・イン・レジデンス

スウェーデンの優れたハンドクラフト作家を短期滞在中で招聘するプログラム。今年度は経費の面から「トレッティフェム・オール」事業で来日するガラス作家との

調整を試みたが、日程に折り合いがつかず、今年度は実現できなかった。

5) 人的交流支援

(1) レクサンド高校日本語クラス生徒の日本研修受け入れ支援
本企画は平成30年度より新たな体制(当別町)での実施になったため、SCFへの受け入れ協力依頼はなかったものの、プログラム実施期間中SCF訪問時に財団の活動や施設の目的について説明をおこなった。
日 時:平成30年5月30日(水)
レクサンド高校生2名来館(当別町職員2名随伴)

(2) レクサンド高校木工科生徒の職業研修受け入れ支援
毎年秋に日本でのインターンシップを行っているレクサンド高校からの要請により、今年も各所との諸連絡をおこなっていたが、生徒の派遣中止により実習はおこなわれなかった。

6) その他(後援事業)

- ①第13回 北欧に学ぶ創造性教育ワークショップ「Kahoot!で質問を作ってみよう」協賛
日 時:平成30年5月26日(土)13:00~17:00
場 所:札幌カフェ 5F(札幌市北区)
- ②「サッポロ・シティ・ジャズ2018」後援
日 時:①平成30年7月14日(土)~22日(日)
②平成30年12月16日(日)~22日(土)
場 所:札幌市内各所
主 催:サッポロ・シティ・ジャズ実行委員会
- ③「新たな魅力を発見!スウェーデンフェア」への協力
日 時:平成30年7月14日(土)~29日(日)
場 所:スウェーデンハウス森林公園モデルハウス(札幌市厚別区)
主 催:スウェーデンハウス株式会社 北海道支社
- ④「スウェーデン芸術祭IN小樽2018」後援
日 時:平成30年7月21日(土)~9月16日(日)
場 所:市立小樽美術館および近隣のインスタレーション展示会場
主 催:スウェーデン芸術祭IN小樽2018実行委員会
- ⑤「スウェーデン児童文学・絵本展」への協力
日 時:平成30年7月21日(土)~9月17日(月)
場 所:市立小樽文学館展示室(入場無料スペース)
主 催:市立小樽文学館(小樽市色内)
- ⑥「札幌ジュニアジャズスクール」への協力
日 時:平成30年7月21日(土)
場 所:札幌芸術の森アートホール大練習室(札幌市南区)
主 催:芸術の森事業部事業課
- ⑦「当別スウェーデンマラソン」への協力
日 時:平成30年8月5日(日)
場 所:スウェーデン交流センター、およびスウェーデンヒルズ周辺
主 催:当別スウェーデンマラソン実行委員会
参加者:1,373名
- ⑧「当別アートフェス2018」への協力
日 時:平成30年9月8日(土)~9月30日(日)
場 所:当別町内各所
主 催:特定非営利活動法人ゆめの種子トープ
- ⑨「ダーラナシンフォニエッタ日本公演」への協賛、サポート
日 時:平成30年9月18日(火)~25日(火)
場 所:Kitara 大ホール・小ホール、札幌市豊平館
当別町立西当別小学校、北海道当別高校
主 催:ダーラナシンフォニエッタ招聘実行委員会
- ⑩「西当別中学生 職業体験学習」への協力
日 時:平成30年10月24日(水)、25日(木)
場 所:スウェーデン交流センター センターホール
主 催:当別町教育委員会
- ⑪「第37回あそ雪の広場」後援
日 時:平成31年2月9日(土)、10日(日)
場 所:阿蘇公園(石狩郡当別町元町)
主 催:あそ雪の広場実行委員会
- ⑫「当別町的アウトドアイベント トペル」への協力
日 時:平成31年3月9日(土)
場 所:北欧の風 道の駅とうべつ(石狩郡当別町当別太)
主 催:トペル実行委員会

2. 広報事業

1) 広報誌「ピョルク」の発行(各2,500部)

138号:平成30年4月1日、139号:7月10日
140・141合併号:平成31年1月1日

2) スウェーデン交流センターのホームページ・フェイスブックの随時更新

- ①フェイスブックを利用したタイムリーな情報の掲載イベントの告知・報告を行った。
- ②ホームページを整備し、イベント情報・活動報告等を随時公開した。
- ③若者を中心に人気のある「インスタグラム(写真共有サービス)」、「ツイッター(短文投稿サービス)」のアカウントを新設し、イベント告知を中心に随時更新。公開した。

3) マスメディア・取材対応

- ①札幌テレビ放送(STV)「ジョシスタ あいく的」平成30年9月3日(月) オンエア
- ②「スロウな旅北海道(雑誌)車で旅する北海道・石狩エリア編 内観・外観・展示物撮影。2019年4月発行
- ③「けいざいナビ」(テレビ北海道)平成30年11月3日(土) オンエア
- ④「LOVE HOKKAIDO」(北海道テレビ放送)札幌日帰り冬満喫編平成31年3月9日(土) オンエア
- ⑤「巷のONちゃん」(北海道テレビ放送) 当別編平成31年3月14日(木) オンエア

4) 資料の整備

3. 工房事業

1) ガラス作品展

「甲斐裕士 Glass Works」
期 間:平成30年7月2日(月)~7月14日(土)
会 場:「手風琴」(札幌市北区あいの里)

2) 体験学習

- (1) 吹きガラス制作体験教室(講師:甲斐裕士)
日 時:毎月第2・第4土曜日(原則予約制)
会 場:スウェーデン交流センター ガラス工芸工房
参加費:2,000円(送料別途負担)
回 数:16回
参加者:30名
- (2) 木工教室(講師:島田晶夫/デザインスタジオシマダ)
日 時:毎月第4日曜日(原則予約制。現在は新規受付なし)
会 場:スウェーデン交流センター 木材工芸工房
回 数:22回
参加者:94名

4. 販売事業

1) ガラス工房、木工房の作品の販売

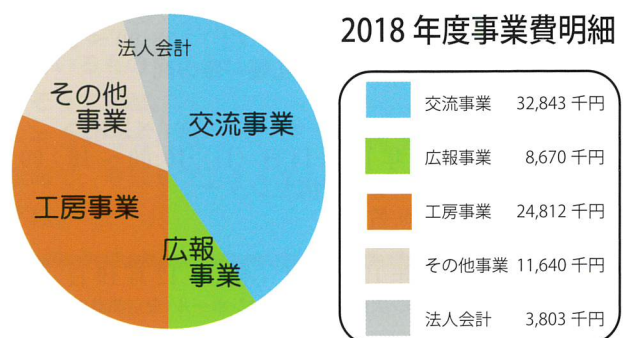
当工房で制作されたガラス作品、木工作品の展示販売を行った。2015年度より当別町の「ふるさと納税」の記念品のひとつとして取り上げられているガラス作品の販売および関係先への販売を行った。

2) 輸入雑貨の販売

スウェーデンの民芸品であるダーラヘスト、その他スウェーデン雑貨の輸入販売を行った。

【2018年度の収支決算】

総収入は63,101千円、総支出は81,770千円。支出のうち継続事業は66,326千円、管理費は3,803千円となっており、経常増減額は-18,669千円となりました。事業費明細は下記グラフおよび表をご参照ください。



令和元年度事業計画

Ⅰ. 基本方針

平成 29 年度で「公益目的支出計画」は完了し、「公益目的支出計画の実施完了の確認書」を平成 31 年 1 月 17 日に受領したため、令和元年度からが名実ともに一般財団法人としての事業計画になる。

令和元年度の事業目的については、定款に基づき、わが国とスウェーデンとの経済的・文化的交流を積極的に推進し、両国の友好親善を促進することを目的に事業を計画実施する。事業については、従来通り次の 4 つの事業を柱に事業を計画実施する。

交流事業：スウェーデンとの相互の産業・文化交流を目的とする派遣及び招聘並びに講演会、セミナー、講習会、展示会の開催事業。

広報事業：スウェーデンとの相互の産業・文化交流に関する情報の公開及び図書その他刊行物の発行と、インターネットでの情報発信の事業。

工房事業：スウェーデンのハンドクラフト技術の普及、日瑞作家同士の交流を目的としたガラス工芸工房及び木材工芸工房の運営。

販売事業：スウェーデンとの相互の産業・文化交流のための工芸品、民芸品及びスウェーデンデザイン雑貨等の輸入販売並びに工房の作品販売。

Ⅱ. 事業内容

1. 交流事業

1) 展示会

- (1) ヴェヴネーテット・ダーラナ作品展「白樺と桜」
日 時：2019 年 4 月 20 日（土）～6 月 30 日（日）
場 所：スウェーデン交流センター センターホール
- (2) スウェーデンの地方紹介シリーズ⑧「(地域未定)」
日 時：2019 年 7 月 6 日（土）～9 月 29 日（日）
場 所：スウェーデン交流センター センターホール
- (3) 「北方の先住民民族 サーミ」
＜展示会＞
日 時：2019 年 10 月 5 日（土）～11 月 24 日（日）
場 所：スウェーデン交流センター センターホール他
- (4) SCF ダーラヘストコレクション展
日 時：2020 年 2 月 1 日（土）～
場 所：スウェーデン交流センター センターホール
- (5) ポスク紹介コーナー
日 時：2020 年 3 月 15 日（日）～4 月 13 日（月）
場 所：スウェーデン交流センター センターホール
- 2) 催事・イベント
- (1) 第 36 回夏至祭
日 時：2019 年 6 月 23 日（日） 10:00～15:00
場 所：スウェーデン交流センター、スウェーデン公園他
- (2) ザリガニパーティ
日 時：2019 年 8 月 18 日（日）12:00～14:00
場 所：スウェーデン交流センター 中庭
参加費：1,300 円
定 員：50 名
- (3) スールストロミング試食会
日 時：2019 年 9 月 8 日（日）12:00～14:00
場 所：スウェーデン交流センター 中庭
参加費：1,300 円
定 員：30 名
- (4) SCF クリスマスフェア
日 時：2019 年 11 月 30 日（土）～12 月 25 日（水）
場 所：スウェーデン交流センター センターホール
- (5) ルシア祭
日 時：2019 年 12 月 8 日（日）13:00～17:00
場 所：スウェーデン交流センター センターホール
- (6) 「クップ」普及への取り組み
 - a センターでの「クップ体験会」
2019 年 5 月～10 月 毎月第 4 土曜日
 - b 2019 年 5 月 26 日 藤女子大 クップ体験会実施

- c 2019 年 6 月 「北欧の風 道の駅とうべつ」クップ大会実施
- d 西当別小学校での「クップ大会」推進フォロー
- 3) セミナー・講習会
 - (1) 「フィーカ」
2019 年度原則毎月第 3 土曜日 14:00～15:30 に開催
 - (2) 「スウェーデン・セミナー」
日 時：2019 年 5 月 28 日（火）15:30～17:00
場 所：札幌プリンスホテル 国際館パミール
講 師：
ヴィクトリア・フォシュルンド＝ベラス氏
(スウェーデン公使参事官)
目黒 聖直氏（北海道スウェーデン協会事務局長）
川崎 一彦氏（東海大学名誉教授）
 - (3) 「スウェーデン・セミナー」
2019 年 原則毎月最終土曜日 14:00～16:00 開催
場 所：スウェーデン交流センター センターホール
 - (4) 「スウェーデン語会話講座」
日 時：2019 年 6 月 5 日（水）より 全 4 回開講
場 所：札幌市男女共同参画センター 研修室
講 師：ソフィア・ヤンベリ（SCF 職員）
 - (4) その他セミナー・ワークショップ
- 4) アーティスト・イン・レジデンス
日 時：2019 年 6 月～7 月（約 5 週間予定）
デモンストレーションイベント：6 月 15 日（土）
作品展：7 月 6 日（土）より
作 家：ロベルト・オルデルゴーデン氏（ガラス作家）

5) 人的交流支援

- (1) レクサンド高校木工科生徒の職業研修受け入れ
- (2) レクサンド高校日本語科生徒日本研修の支援
- (3) 日瑞両国の若者の交流企画
- (4) その他
- 6) その他（後援事業等）
 - ①「スウェーデンのイメージを絵画で変えた画家カール・ラーション」セミナー講師派遣協力
 - ②「サッポロ・シティ・ジャズ 2019」協賛
 - ③「あそ雪の広場」協賛

2. 広報事業

- 1) 広報誌「ビョルク」(邦文)の年 4 回の発行。
- 2) SCF ホームページ、フェイスブック等 SNS の更新
- 3) 資料の整備
- 4) マスコミ対応
- 5) SCF ブックレットの発行

3. 工房事業

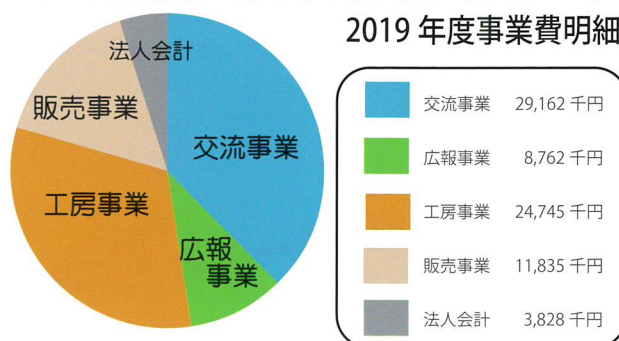
- 1) ガラスの作品展 札幌市北区あいの里「手風琴」を予定
- 2) 木工教室、ガラス工芸体験教室
 - (1) 吹きガラス制作体験教室 毎月第 2・第 4 土曜日
 - (2) 木工教室 毎月第 2・第 4 日曜日（原則予約、現在空席なし）
 - (3) 夏至祭協賛企画としての制作体験教室の実施

4. 販売事業

この法人の収益事業とし、ガラス工房、木工房で制作した作品の販売と、スウェーデンの優れた雑貨や民芸品の販売を積極的に行う。

【2019 年度の収支予算】

2019 年度の総収入は 56,539 千円、総支出は 78,332 千円を予定。支出のうち事業費総額は 74,504 千円、管理費は 3,828 千円、当期増減額は -21,793 千円と予定しております。事業費明細は下記グラフ及び表をご覧ください。



4月20日(土)～6月30日(日)にかけて、ダーラナ地方で活動するテキスタイルグループ「ヴェヴネーテット・ダーラナ」のアーティスト達による作品展が開催されました。それに併せて、「ヴェヴネーテット・ダーラナ」のアーティスト5名が来日し、作品展オープニングとワークショップをおこないました。アーティストのみなさんも、ワークショップに参加した方との交流を楽しまれたほか、今回の来日に併せて日本の各地を訪れ日本の伝統的な織物文化に触れるなど、有意義な滞在となったようです。

今回その5人のアーティストたちから、作品展に寄せてのメッセージをいただきました。

「家を出て、家に向かった」、当別スウェーデンヒルズのスウェーデン交流センターに来た時にそう感じました。レクサンドの自宅に居るような、そんな感じすらしたものです。4月は未だ木々の枝に雪が残っていましたが、ヒルズの赤い壁の家々は暖かく迎えてくれました。初対面はちょっと気難しいように感じて、思いやりがあって優しい…そんな日本人とスウェーデン人の気質に似ていますね。

今回で4度目となる日本訪問で、両国の文化の違いよりも、自然への愛着、素材を大切にすること、人々の困難に立ち向かう力や謙虚さといったものに、共通点やつながりを多く見出しました。私たちの作品展は、私たちもこよなく愛する桜と白樺というものを題材にすることで、自然と両国のつながりへのオマージュ(畏敬・尊敬)としています。地理的には離れていても、心はつながっているのです。スウェーデンにある私の家と工房も白樺と桜に囲まれています。桜と白樺に対する気持ちを、今回このような形で共有できたことを、何よりうれしく、また誇りに思います。

キッシ・フリーマンソン

日本に向かってスウェーデンの空港を飛び立った時ですら、夢じゃないだろうかと自分の腕をつねってみたほど、今回の日本への旅路は私にとって素晴らしい機会でした。そう、ヴェヴネーテット・ダーラナの同僚と共に、作品展とワークショップを行い、日本の皆さんに私たちの作品を見てもらうために。一年前は実現不可能だろうとさえ思っていたものですが、皆で協力して実現にこぎつけたのです。

北海道の地に降り立ち、電車で揺られて当別まで向かうまでの道のりも、それ自体が(良い意味で)冒険と言っても過言ではありませんでしたが、無事にスウェーデンヒルズにたどり着くことができました。何年か前に新聞で見た、赤と白の伝統的なスウェーデンの様式で建てられた家が日本の地で軒を並べる、そんな一度行って見てみたいと願っていた光景を、直に見ることができたのです!

スウェーデン交流センターの皆さんには暖かく迎えていただき、展示会に必要な作品や準備なども(全て輸送の関係で作品が全て間に合っていたわけではないのですが)してくださいました。展示会の初日にはさきやかながらオープニングイベントも開くことができ、また初日と翌日に開催したワークショップには多くの方にご参加いただくことができました。大成功だったと言ってよいのではないかと考えています。

今回の素敵な体験を与えてくださった皆さんに心より感謝いたします。当別での今回の思い出は、いつまでも胸の中に刻んでおきたいと思っています。

エヴァ・ネルソン

日本で私たちの作品を展示できるなんて、なんて素晴らしいことでしょう! 昨年秋と冬の間、私たちは春に訪れることになる当別に思いを馳せ、準備を進めてきました。そしてこの春ついに、当別にあるスウェーデン交流センターに行くことができたのです。センターではとても良くしてもらいましたし、スウェーデンヒルズで過ごした時間はとても素晴らしく…ここはレクサンドの郊外なのでしょう? ヒルズの家々はダーラナにあるそれと見間違えるほどに似ていて、とても楽しくなりますね。

今回の作品展の為にスウェーデンから送った織物は、オープニングには間に合わなかったため、作品展の始めは小規模なものとなってしまいました。ですが、今回私たちの作品をお見せすることができたことと、いらっしゃった皆さんと共にフィーカをし、お話ができたことは嬉しいことでした。

今回の当別への旅はとても印象に残るものとなりました。この素晴らしい交流の下地には、当別とレクサンドの姉妹都市交流の歴史があり、それは双方の街の多くの人の関わりによってなされたものなのだと感じています。今回、この当別での素晴らしい機会を提供していただいたスウェーデン交流センターの皆さんに、心より感謝いたします。いずれまた、日本…当別の地を訪れる機会が来ることを願っています。

キッキ・サンドベリ





夢にまで見ていた、ヴェヴネーテット・ダーラナの仲間とともに日本への旅路。それが今回実現できました。

本州での絹織りと藍染めを2日間体験したのち、北海道へ赴く時には期待に胸躍らせていました。スウェーデンヒルズの、赤と白の家が立ち並ぶ光景は、まるで家に帰ってきたかのようにスウェーデンのそれと似通っていました。本当に、今回の日本への旅は夢だったんじゃないだろうかと思ってしまう。スウェーデン交流センターで過ごした数日間は、スタッフの皆さんは暖かく迎えてくださいましたし、非常に有意義かつ感性を刺激される体験ばかりでした。

今回作品展を開催するにあたって到着が遅れていた作品は、どうにか着いたようで安堵しています。作品展の初日は当初予定していた展示作品の代わりにいくつか展示する形で開催しましたが、オープニングとワークショップには多くの方に来ていただき、また楽しんでいただくことができ嬉しく思っています。交流センターのスタッフの皆さん、そして今回ヒルズで宿泊した施設の管理人のお二人には心から感謝いたします。

当別での素晴らしい時間に加え、京都と東京で参加した「絞り染め」と「刺し子」のワークショップ、そして立ち寄った博物館や興味をそそられた数々の出会いや出来事は、今回の旅をより豊かに、素晴らしいものにしてくれました。

いつの日かまた日本に来れることを心から願っています。

オーサ・ヴィークステン・ストレムボム

昨年の計画開始から、糸を編み、ショールやタオル、クッション、バッグ、ドレス、カーペットなどを織りあげ、そして漸くこの春5人のヴェヴネーテット・ダーラナのアーティストは訪日の日を迎えました。今回私たちが泊まった杓々荘は、私たちだけで使わせてもらえるようにしてもらえたのですが、赤と白でまとめられた外観に、広く快適な内観に至るまで、私たちが住むダーラナにある家と似ていたことはとても印象的でした。スウェーデンヒルズに着いてすぐに「白樺と桜」作品展の準備に取りかかり、私たちが当別で居る間に、会場となったスウェーデン交流センターでささやかながらオープニングを開催することもできました。作品展初日と翌日二日に亘って、プレスレット織りやボンポンのキーリング、ブローチづくりのワークショップなど、私たちのテキスタイルを知り、興味を持ってもらえるようなワークショップを開催しました。日本のゴールデンウィーク期間中、多くの方に足を運んでいただいたと聞いています。

今回の作品展は、企画、ポスター作りや各所への招待状作りなど、開催するための準備や作業を進めてくださったスウェーデン交流センターの和島美樹さんのご尽力なしには成し得ないものでした。また、交流センターのスタッフの皆さんはとても丁寧にしてくださいましたし、馴染みのない人ですら、私たちが道に迷った時には丁寧に教えてくれるなど、日本人は私が抱くイメージどおりの方々ばかりでした（今回立ち寄った京都と東京では、私たちが道を訊いた人が、たとえ私たちと行く方向が逆だったとしても、途中まで道案内をしてくれたということが10回もありました。ストックホルムやイエテボリではまずありえない光景ですね）。

もう一つ、今回の日本のテキスタイル旅行で素晴らしい体験をしました。群馬県安中市にある養蚕農家 ton-cara への訪問で、私たちは絹糸紡ぎと藍染めを教えたのですが、教えてくださった皆さんがフレンドリーで親切な人たちばかりで、群馬の絹織りの歴史や、山の上にあるお薦めの温泉などを教えてくれました。当別での一連の行事のあと、私たちはそれぞれ日本各地を旅行し、オーサと私は京都で「絞り染め」のワークショップに参加し、東京では「刺し子」の技法を学びました。どれもがもっとやってみたいと思うほどに素晴らしいものであり、ダーラナに戻ることが惜しいとすら感じていました。と同時に、ぜひ日本の友人たちには私たちのダーラナに来てほしいと思っています。この当別とレクサンドとの交流がいつまでも続いていくことを願いつつ…。

シリヤンスネース/レクサンドにて

インゲル・ニルソン

ブレケル・オスカル

Intervju med Oscar Brekell

「お茶」と聞いて湯呑に淹れられた緑茶などの「日本茶」をイメージされる方は多いと思います。そんな日本茶の世界で活躍するスウェーデン人がいらっしゃることをご存知でしょうか？

今回は日本茶インストラクターの資格を持ち、日本の各地で日本茶の魅力伝えるスウェーデン人、ブレケル・オスカルさんに日本茶インストラクターを目指したきっかけや、日本茶の魅力などをインタビューしました。



©Photo by Hayato Motosugi

初来日までのこと

—よろしくお願ひします。まずは日本に来たきっかけをお聞きしたいと思いますが、初めて日本にいらっしたのはいつ頃ですか？

初めて日本に来たのは2006年のことです。あの頃は観光客として来たのですが、そもそも日本に来たいと思った理由は「お茶」に興味があったからで、当時はまだお茶を仕事にしていくという考えは有りませんでした。ただお茶が好きだったことと、日本は社会と文化が面白そうだなとは思っていました。日本の歴史や、日本の伝統工芸・美術、侘び寂びの文化といったものに憧れがあって、人生で死ぬ前にいつか行ってみたい国のひとつとして捉えていました。

—その前から日本という国には興味があったのですか？

ええと、それは高校時代からですね。もちろん幼い頃から「日本のもの」っていうのは周りにあって、例えばシャープとか。それ以外には使っているステレオがソニーだったり、任天堂やセガといったテレビゲームもやっていましたね。でも、日本という国を特別意識するようになったのは高校3年生のころでした。世界史の授業がきっかけで、明治時代以降の近代化や明治維新についての書籍を読むことがありました。急速に近代化が進んで、隣国と全く違った道を日本は選んだわけですが、そこは面白いなと感じました。「他の周辺の国と違うことをやっている島国って、その背景にも何かメンタリティや考え方、国民性があるんじゃないかな」って考えたんです。もともと本を読むのが好きなもので、高校の授業のあとにも図書館に行って日本についての本を借りて、もっと古い歴史とかに触れて、戦国時代とかについても学びました。そこで初めて茶道っていう文化にたどり着いたんですけども、なんでそこに目がいったのかって言うと、もともとは（私は）紅茶が好きなので、父も母も紅茶を飲んでたことが大きいかもしれませんね。スウェーデンにいらっしたということをご存知だと思うんですけど、スウェーデンはどっちかといえばコーヒーが一般的ですけれどね。

—そうですね。

父も母も紅茶派だったということで、スウェーデンとしてはちょっと変わった家庭というか、珍しい家庭で育てられたこともあってか、小さい頃からティーポットでダーズリンやセイロンなどを飲んでいました。日本茶というものを初めて知った時に、これってすごいなあって感動して。同時にわざわざこの緑色のお茶を飲むために作法をいろいろ覚えたり、茶室を作ったりすることには何か魅力があるはずだと思ったんです。

—なるほど。

じゃないとわざわざこんなことはしないだろうと。

—そうですね、結構日本茶や茶道の作法は細かくて複雑ですからね。

そう。で、自分が毎日飲む紅茶も美味しいんですけど、緑茶には何か普段飲んでいる紅茶には無い魅力が、奥深いところがあるはずだと思って。それがきっかけになって緑茶を飲み始めましたね。

—向こう（スウェーデン）のお店のお茶を買っていらっしたんですか？

はい、スウェーデンのお茶の専門店で購入された緑茶を買って淹れていました。お茶の専門店と言ってもスウェーデンのお店は基本的に紅茶がメインで、緑茶もあればフレーバーティーも、香料の入っていないピュアなお茶も両方扱っている店が多いですね。

—なるほど。私もスウェーデンではなかなか緑茶を見つけられず…紅茶専門店に足を運べば、スウェーデンでも緑茶があるんだなって思ったのかもしれないですけど。

選択肢が多かったわけではないですけどね。

日本茶インストラクター

—ホームページでも拝見しましたがブレケルさんは Lund 大学で学ばれたと伺いました。日本語も Lund 大学で学ばれたのですか？

そうですね、2004年に大学に入った時には哲学を専攻していました。でも哲学はなかなか仕事につながらないという実情があって、それ以上就学のために借金を増やしてもしょうがないと感じていました。まあ教養にはなるんですけど…。でも、だからと言って自分は何がやりたいのかって言うとそれは決まっていなかった。スウェーデ

ンではどこかに旅行したり、ワーキングホリデーをしたりすることで自分のやりたいことを見出す人は多いので、私自身もちょっと海外に行ってみたいという気持ちはありました。それと、弁護士をしている父と話をしている中でアドバイスをもらったことも大きいですね。父のこれまでの経緯…父は大学を卒業してからすぐ就職が決まって、それでずっと働きっぱなしだったそうで、一つ後悔していることがあるとしたら、海外に行けなかったことを挙げていました。父は留学などをしなかったこと…まあ大人になってからではそう簡単にできないこともあるから、もし行きたいところがあるのなら、それは若いうちに行きなさいって、一年後とか二年後とかに帰っても、生活や勉強も含めてまたやり直せばいいっていうアドバイスをしてくれました。



そんな父からのアドバイスもあって、前から日本に来たいと思っていたので、頭の中を整理しながら日本にとりあえず行ってみようと、最初はそんな感覚でした。お茶を仕事にしようとかそういった気持ちは当初はなかったんですね。その後、一度スウェーデンに帰ってからのことですが、日本にいる間にホームステイ等を通してできた友人たちの一人がスウェーデンに遊びにきてくれたことがありました。その際私の家(部屋)にも寄っていったのですが、私の部屋に置かれていた沢山のお茶の道具やら常滑焼きの急須やらを見た友人が、「そんなにお茶が好きなら、いっそのこと日本茶インストラクターになったらどう？」って言ったんです。なんか冗談半分のような話ですけど。というのも日本茶インストラクターは日本語でしか取れない資格なので、すごくハードルが高い資格なんです。色々日本を旅行してきたので挨拶ぐらいはできるんですけど、上手に喋るといってではなく、でも日本茶インストラクターの資格となると読み書きができないと取れないです。

一本当に日本の伝統的なものですね。

でもあの冗談半分の会話をきっかけに、お茶を趣味ではなく仕事にしようと思うようになったのですが、ワインだとソムリエ、コーヒーだったらバリスタといったような「資格」を持っているということはスウェーデンでは非常に流行っていると言うか、とても有意義なことなんです。日本でもそうですが、スウェーデンでもソムリエとかバリスタは当時からとても人気がある資格なんです。人気がありながらもちゃんと成功していて、そ

れを仕事にしている人は素敵だなと、好きなものや趣味趣向を仕事に出来るっていうのは素晴らしいことだなと思っていたので、緑茶の資格があると聞いた時に「もしかしてこれって行けるかもしれない」と感じたんです。

—確かにそうですね。当時の日本でも、それまで「趣味を仕事にするな、とにかく稼げ」という価値観から「自分がやりたいものと仕事にしていく」という方向に少しずつ変化していった時代だだと思います。で、外国の方がお坊さんになられたとか、旅館の女将になられたといったお話を耳にするようになりましたが、海外の方が日本の文化に興味を持ってやりたいと思って、それに対して門戸を広げていった頃かなと思いますね。

素材を大事にする日本

—当時日本に居た時の思い出って何かありますか？

沢山ありますよ。すごく楽しかったのは…特に初めて目にした時に、これは植物か動物か、何でできているのかわからないもの、例えばこんにゃくとか、かまぼことか。

—確かにこんにゃくとかはスウェーデンにはないですね。

ええ、なのですごく楽しいです、毎日が。毎日新しいものを食べてもきりがないくらいに珍しい食べ物が多くて、バリエーションも多いですね。

—スウェーデンで食べられないものって結構ありますもんね。

そうですね、日本に来たのがちょうど秋口で、その時期だったということもあったと思いますが、「おでん」とかは特に印象深いですね。日本食が好きではないという人には少し話が違うかもしれませんが、私には日本食が口に合っていたと言いますか…パワフルな味ではないんですけど、野菜にしても魚にしても肉にしても、日本料理ってすごく素材を大事にしている、素材の本来の味わいが楽しめる料理だと思うんです。それは日本茶にも感じるのですが、とてもいいなと思います。

—確かにそうですね、日本食は、特に関西方面は薄味で、それぞれの素材の持っている味を生かす料理っていうものが多いいですね。スウェーデンに限らず、ヨーロッパやアメリカの料理や飲み物はこれでもかって言うほどに味付けが…。

強い甘味と塩味が出てますよね。

—そこらへんはやはり違いを感じますね。ペットボトルのお茶でも、日本で売っているお茶と違うテイストですよ。あとは紅茶を自分で淹れて飲むか、どうしても緑茶を飲みたい時は、日本の食材を扱っているお店に行って買うことになりましたが、それもどうしても急須も買わないといけなくて、結構な出費でしたね。

そうですね、緑茶や急須などは日本に来るといっぱいあるじゃないですか、それがとても楽しくて。あとは日本語自体も興味がありましたね。当時観光客とは言えホームステイをしていたので、学校で勉強する日本語とはちょっと違う感覚の、(日常的な、ありふれた)日本語にも惹かれるものがありました。それこそ高校時代に見た日本の映画なんかを見たりして、その発音や響きがすご

く気に入って、この音がいつか自分の口から出たらずごいなあって思っていましたね。例えばスペイン語とか中国語とかポルトガル語とか…英語以外の外国語を話せるようになりたいって言うのがありまして、出来れば文字がちがう言葉の方が面白いなと思っていました。中国語やアラビア語、ペルシャ語などもそうですが、一番興味があったのが東洋の言葉で、特に日本語を聞いたときに、響きが良かったんですね。それも日本に興味を抱いたきっかけの一つであったんじゃないかなって思います、振り返ってみると。自分が聞いた言葉のフレーズなんか話せて、しかもそれが通じるようになった時は、達成感を感じますし、やっぱり楽しいですね。

ーわかります！人に通訳してもらうものと、自分でスウェーデン語で話して伝わった時とでは、伝わった時の感動は違いますよね。今は便利になって、簡単に通訳してくれるツールはたくさんありますが、せっかくだからスウェーデンならスウェーデン語、フランスならフランス語で喋って、直にコミュニケーションしてみたいっていう気持ちはありますね。

日本独特のもの・こと

ー食べ物や言葉以外にも面白かったことや、変わっているなって思ったことはありますか？

沢山ありますよね…スウェーデンはそれなりに大きな街でも結構静かな国ですので、余計に感じるころにはありますが、日本はとにかく何かのアナウンスが…。例えば日本のスーパーってすごくうるさいんですよ。あれに慣れるまでに結構時間かかりましたね。電車もアナウンスがすごく多いですね、乗り換えの案内とか。それに音だけじゃなくて、ビジュアルの面でも刺激的というか攻撃的というか…地方に行ってもパチンコ屋とかはすごく…。

ーあ～…、キラキラしてますよね（笑）

ええ、キラキラしてますよね（笑）

ー確かに。パチンコ屋の電飾は刺激的ですね。ヨーロッパだと光が暖かい感じがするんですよね。ふわっとするというか。配色の関係もあるかもしれないのですが、色んな色を使っていないしギラギラしていませんよね。でも日本は…それこそ新宿や渋谷、秋葉原に行くと、これでもかかってくらいに音とビジュアルで訴えてきますね（笑）

そう。それは楽しい面もあれば疲れる時もあると思うんです。日本では突然、思いもしないぐらいのタイミングと度合いで視覚と聴覚での刺激があったりしますからね。それとあとは…日本人の独特なしぐさって言うか振る舞いも変わっているなって思いましたね。ある種それを体験するために日本に来たんじゃないかなって思う部分もありますけど、例えばセブンイレブンでもこう…（お辞儀をする仕草を示して）

ーああ～、今やっている所とかあるのかな…新入社員はこう…両手を前で合わせて、「お辞儀は30度で」って…。

私もやりました、新入社員のときに（笑）

ーなかなかあれは…やらないですよ…海外では。そういう仕草は海外の人から見ると非常に丁寧に、時として丁寧を通り越してある種「変なの」って思われるみたいですね。

抹茶と煎茶

ーブレケルさんは日本茶インストラクターとして、主として煎茶を扱っていらっしゃいますけれども、抹茶を使った茶道についてはご経験はありますか？

多少ですがやりました。それがきっかけになって日本の文化が素敵だなって思うようになって日本茶を飲むようにもなったということもありますが、茶道って結構難しいんですよ。私も留学時の1年間は茶道部に入っていたのですが、その後スウェーデンに帰ると、スウェーデンには茶室も何もないので、茶道ができない状況になっていましたね。日本に戻ってきた時にはサラリーマンになっていたので、なかなか時間も心の余裕もなくて。もともと好きだったのは煎茶だったこともあって、煎茶を中心に日本茶の専門家を目指して日本茶インストラクターの資格も取ろうとしていたので、そこにプラスして茶道をやろうと思うと…お金が空から舞い降りてこない限りはなかなかできないですね。

ー（笑）

もう少し茶道には触れておきたいとは思っているんですけど、そこまでやっていないもう一つの理由としては、やっぱり茶道をやっている外国人っているんですよ、日本に住んでいる人も海外に住んでいる人も含めてそれなりの数。それが一人増えただけでは、まあ面白いことにならないだろうなと思ったんです。それこそ仕事にならない。でも外国人で煎茶の専門家はほとんどいない、日本茶インストラクターの資格を取って、産地へ研修や修行に行っている外国人はほとんどいないので、せっかくならばそちらをやった方が面白いし、人を喜ばせたいと思いますし、自分がやっている仕事に対して喜ぶ人がいれば社会貢献になるので、そちらの方が良いんじゃないかなと思いました。

ーなるほど。

生き方の問題だと思うんですよね。もし他の仕事をやってお茶を趣味としてやっていたら、もっと茶道などに触れることもあったのではないかなと思うんですけど。今はこうして煎茶の道に特化してやっていますね。

ーそうですね、煎茶と抹茶とでは元々が違うし、抹茶ってわかりやすいですね、見た目からして日本的ですし。日本人としても日本文化を伝える要素…「侘び寂び」も入っているし、海外から来る方も「これがお茶だ」って理解してもらうには容易ですよ。でも日本のお茶には煎茶っていうものがあって、実際は煎茶の方がよく飲まれているものですよ。

そうですね。

ーそういう面に気づかれて、煎茶の道に進まれたという意味で、やはりブレケルさんはパイオニアだなと思いますね。



インストラクター になるまで

—この日本茶インストラクターを始められるまでには
色々な過程を経ているのかなと思いますけども、具体的
にはどういったことを…？

まず日本茶インストラクターは日本語でしか取れない
資格なので、まずは日本語の勉強が必要になりました。
そうするとまた大学で勉強…日本語学科に編入して2年
間勉強して、1年間岐阜大学に行って、その後スウェー
デンに帰って卒業論文を書いて卒業しました。その後
に勉強し始めたんですね、日本茶のことを。

—日本茶インストラクターになるために…ですね。

そうですね。それは2012年の話で、2012年の秋に一回
日本茶インストラクターの試験を受けたんです。勉強自
体は通信教育で、スウェーデンにいても構わなかったん
です。ただ、試験は日本に来ないといけなくて、あの年
は東京の五反田で受けました。他に京都とか名古屋とか
でも受けることはできたのですが、一応東京で受ける
ことにして。で、一回失敗したんですよ。不合格になっ
ちゃって。

—そうなんですか？

日本茶インストラクターのテキストを見ていただけ

ばおわかりになると思いますが、すごく難しいんです。
日本人でも合格率が3割前後なんです。すごく専門用
語や常用漢字じゃない漢字…読み方も日本人でも良くわ
からない読み方の漢字が多くて、日本人にとっても大変
だと思いますけど、外国の人にしてみたら相当ハードル
が高かったです。それこそスウェーデンと日本で勉強し
た3年間だけで日本茶インストラクターのテキストと試
験に挑戦するのは難しすぎましたね。試験を受けた時に
既に「ああ、これってやっぱダメだな」って感じては
いました。で、もうてっきり落ちたと思ってはいたんです。
結果が来たのはスウェーデンに帰る前。宿泊先に届くよ
うにしてあったのですが、封筒を開けて「不合格」の
文字を見ると、覚悟はしていましたがかなり落ち込みま
した。ちょうどその数年前に世界的にも有名になった日
本の政治家の会見のように、号泣に近い状態になってし
まいました(笑)。次の日スウェーデンに帰る飛行機の中
で色々と考え直して、やっぱり資格ってすごく大事な
んですけど、それよりもお茶の知識。お茶について学ぶた
めには産地に行くことが重要ですし、お茶の業界の中
の人脈、そういうものも大事なんじゃないかなと思うよ
うになりました。そうするとスウェーデンに居たままじゃ
ダメだなと思ったんです。

(144号に続く)

ブレケル・オスカル *Oscar Brekell*



©2015 Photo by Klara Maiko

ホームページ

<https://www.brekell.com/>

イベントの情報はこちらから！

www.instagram.com/brekell

- 1985年 スウェーデン生まれ
 - 2008年 スウェーデンのルンド大学日本語科入学
 - 2010年 岐阜大学に留学
 - 2012年 大学卒業
 - 2013年 日本企業に就職し、再び来日
 - 2014年 日本茶インストラクターの資格を取得
 - 2015年 静岡県茶業研究センターにて研修生
 - 2016年 手揉み茶の教師補の資格を取得(外国人初)
 - 2016年 日本茶輸出促進協議会に就職
 - 2016年 世界緑茶協会の「CHALLENGE」賞を受賞
 - 2017年 書籍「僕が恋した日本茶のこと」が発売
 - 2018年 ブレケル・オスカル企画合同会社を設立
 - 2018年 日本茶ブランド「Oscar Brekell's Tea Selection」が発売
 - 2018年 書籍「ゼロからわかる日本茶の楽しみ方」が発売
 - 2018年 書籍「ブレケル・オスカルのバイリンガル日本茶 BOOK/ The Book of Japanese Tea」が発売
 - 2019年 書籍「おいしさ再発見！日本茶の魅惑」が発売
- 高校時代に日本茶に魅了され、スウェーデン初の日本茶専門家を志して来日。現在は東京在住。国内外でお茶の講座やセミナーなどを開催し、テレビやラジオにも出演。



発見力

つながりをみつける力

【業務内容】

美術、書道作品集・記念誌・町史・チラシ・ハガキ・
パンフレット・自費出版・インターネット事業・
各種イベント 他



NAKANISHI PRINTING CO., LTD.

中西印刷株式会社

〒007-0823 札幌市東区東雁来3条1丁目1番34号

TEL (011) 781-7501 FAX (011) 781-7516

<http://www.nakanishi-printing.co.jp/>



連載
寄稿

ヌイ スウェーリェ Nu i Sverige

第7回

スウェーデンの高校卒業 “パーティパウダース”

寄稿

ソフィア・マルム

ビールを飲みながらトラックに乗ってワイワイする。もちろん、例の卒業帽子をかぶりながら。これがスウェーデンの高校卒業。

三年間の高校生活を終えて、スウェーデンでは5月に高校を卒業します！そしてスウェーデンでは18歳になったら大人になるので、高校を卒業すると同時に大人になります（日本は20歳だね）。高校を卒業するにあたって、卒業をお祝いするイベントがたくさんあります！スウェーデンでは高校を卒業してからすぐ大学に行く人は少なく、旅行や何らかの仕事をしたり、または何もしなかったりする人もいますので、スウェーデンでは高校を卒業するのは「自由」になったことへの祝いですね。

スウェーデンではその場所その場所で高校卒業のスタイルが違うので、今回はストックホルムの高校卒業スタイルにフォーカスを当ててお話をします。さてさて、ストックホルムの高校生は何をして高校卒業をお祝いするのでしょうか。

ちなみに、今回の記事では妹の高校卒業の時の写真を使わせていただきます～。

妹よ！いつもありがとう！



卒業式の前① 卒業帽子イベント



卒業帽子には名前が書いてあるのが普通です。左…見えている劇にファーストネームのフリーダ「Frida」って書いてあります。

卒業帽子がないと何も始まりません。買わない卒業生は会ったことないですね！値段は200クローナから1,500クローナ（日本円で2,300円から17,000円）くらいまで。

高校を卒業する日にだけ使う帽子なので、あまりこれにお金をかけたくない卒業生もいますね。そして卒業帽子イベントもあります。町に行くとレストランの外でアルコールを注文して飲んだり、



朝の9時からコシ。シールドを牽きながら！

友達とワイワイしたり。クラブの中みたいに音楽も半端なく流れます！

ああそうそう、名前が示すとおり、卒業帽子を被ることは欠かせません！

卒業式の前② 卒業パーティ

3年間同じクラスで過ごした同級生と卒業パーティをします。それだけでなく、別の高校に通っている友達の卒業パーティに行ったりもします（妹は8つもパーティに行ったそうです！）。



この卒業パーティでは、テーマを設けて、それに合わせた格好をしたりするのが普通です。妹は映画のテーマでミニオンの格好をしました～。

卒業パーティのようす。各自のプラスチックのお皿にはクラスメイトからの「このクラスの〇〇」というメッセージが書かれている。例えば頭が良かった妹の場合は、「このクラスのStephen Hawking」。

卒業パーティのようす。各自のプラスチックのお皿にはクラスメイトからの「このクラスの〇〇」というメッセージが書かれている。例えば頭が良かった妹の場合は、「このクラスのStephen Hawking」。

卒業式の当日

いよいよやってきた。卒業をする日。大人になる日。自由の日。その日を「シャンパン朝ごはん」でスタートするのが伝統的なスタイルです。

スウェーデンでは18歳になると大人になります。高校三年生は基本的に皆18歳なので、「スウェーデンでは」アルコールはOK！

朝からこんな感じだから、ちょっと酔っ払った感じで学校に行きますね～（これは高校卒業を前提におこなわれることなので、先生と両親には了承済み）。

学校では高校卒業証明書をもって、その後、校内で待っている家族に一度会います。スウェーデンでは卒業生の家族が、卒業生の赤ちゃんの時の顔を写した看板を持って、卒業生が出てくるのを待っているんです。



シャンパン朝ごはん。6時くらいにヨーグルト、サンドイッチ、そしてシャンパン。いかがでしょうか？

で、次のアクティビティはたぶん一番面白いやつ。「トラックに乗ってワイワイします」。お酒飲みながらね。もちろん、運転者は飲みません。



トラックに乗ってワイワイ。トラックに「13年間学校に行っているのに、何も知らない。こっちは社会心理学！」と書いてある。

ここでのポイントは(私は失敗したけど)、卒業式の服から普通の服に一応着替えること。そして卒業帽子を被らないこと。または帽子の汚れを防止する何かを付ける(今いいギャグできたなあ、笑)。



↑のようにちゃんと準備しておかないと、↓のようになります。

というも、卒業帽子にお酒やらジュースやらがかかると、せっかくの白色の帽子が黄色いお酒の色に変わってしまいます!(そして臭くなります)!



↑のは私の帽子で、味はまだ白い。「師さんの失敗を見取った」って言われた。(師の)失敗は(味の)成功の元だね!

洗濯できないものなのでここはご注意を〜。

トラックに乗ってワイワイした後、結構酒臭い自分がいることに気づきます。そんなイベントの後、実家に戻ってシャワーを浴びて、素敵な服に着替えて、家族が開催してくれる「卒業イベント」に参加します。



卒業イベント。ここでもお酒。アルコールが止まらない日だね。

さっき言った卒業パーティとは全く違います。卒業パーティは同級生や友達と一緒にダンスをしたり、お酒を飲んだりしますが、卒業イベントは大人の、高級感漂う穏やかなもの。そしてもうちょっとフォーマルな服を着て参加するものなのです。

私は高校を卒業したとき、卒業パーティは卒業した日の夜にありました。だけど妹は、卒業の一ヶ月前に卒業パーティをしました。なので、卒業の日は卒業パーティじゃなくて、「終わりパーティ」と言っていました。

…なんかパーティ多いね。社会人の生活を誤解してないかな?



卒業式のあと ~宴のあと~

皆さん、どう思いますか?パーティとお酒ですね、スウェーデンの高校卒業は。

高校を卒業した、その次の日は二日酔いで始まりますね。「きゃああ自由!!てか頭が痛い!ちょー疲れたけど。やばい!仕事がない。これからどうしよう?!昨日一体何をお祝いしたんだ!」という複雑な気持ちを抱く卒業生も当然います。

だって、これからの人生は自分で決めるもの。つまりこれからの人生は自分の責任。急に重いと感じる人もいます。ましてや、スウェーデンでも周りの皆さんから

「あなた、高校を卒業したね。これから何をするつもり?」

って訊かれ始める。

妹は卒業したばかりのときにまだ何がしたいのかわからなかったので、この質問に困っていました。高校を卒業してから3年経つ妹に、「高校を卒業したあとの周囲の期待とか、こうすべき・こうしなければいけないといったルールや決まりのようなものがありますか?」と訊いたら、妹はこう言いました。

「高校を卒業したら何をすべきなのか、絶対的なルールなんてない。だけど、高校を卒業してすぐ大学に行く知り合いがいたなあ。私が思うのはなぜ?仕事の経験ないし、世界を見てないし、いろいろなことをやってみたこともなく。それは自分に正直なのかな?」

皆さんはどうでしょうか。高校を卒業したときに周りからのプレッシャーを感じましたか?さっき言ったとおり、スウェーデンでは高校卒業したことだけじゃなく、自分で自分の人生を決められる大人になったことを同時にお祝いすると思います。強いて言えば、スウェーデンでは「たくさんのパーティ」が自由のシンボルなのかな?これは次の北欧研究対象になるかもしれません。はは!

以上、スウェーデンの高校卒業の記事でした~!読んでいただき、本当にありがとうございました!

また次回!

Author ソフィア・マルム



2010年高校を卒業後、日本に留学。カイ日本語学校で学び、帰国後日本語能力試験1級を取得。

ターラナ大→ウプサラ大→ストックホルム大を渡り歩き日本語/日本学を修了。途中2015年に京都大学に1年の留学を経て、2017年6月ストックホルム大学日本学科を卒業。いわゆる大学移民。好きなものはおにぎり、赤飯そしてマグロ丼。現在、ストックホルム大学でジャーナリズムを勉強している。

スウェーデンの生活についてインスタグラムとツイッターもやっていますので、スウェーデンに興味があったら、是非見てみてください。記事で書ききれなかったことや、取材の裏話なども紹介しています~。

Instagram: [instagram.com/wagasueden](https://www.instagram.com/wagasueden)
Twitter: twitter.com/wagasueden
ブログ: <https://ameblo.jp/wagasueden>

気分は北欧生活。

スウェーデンヒルズ Since 1984
Sweden Hills 

札幌郊外の丘に北欧の街並。 スウェーデンヒルズ。

大都市近郊でありながら自然に囲まれた美しい街並。
「人が人らしく、自然と調和して豊かに暮らす」を理想に、
スウェーデンの住環境を再現した住宅地として誕生以来30年。
美しい風景の中で約300家族の暮らしが息づいています。

0120-242-522 [スウェーデンヒルズ](#) [検索](#)

スウェーデンヒルズ ウェスト地区 レクサンド公園

賛助会員入会のお願い

一般財団法人スウェーデン交流センターは、ガラス作品や木工作品の制作などを通して多方面での交流を行うとともに、夏至祭、ルシア祭、各種展覧会など、年間を通して様々な催しを行い、スウェーデン文化の紹介を積極的に行なっています。

特に「世界一臭いスウェーデンの発酵にしん」スールストロミングの試食会を毎年開催し、多くの皆様からご好評を頂いております。

これらの催しは、当センターの趣旨にご賛同くださる皆様が賛助会員としてその運営基盤をささえてくださっており、毎回の催し等は、広報誌「ビョルク」にも掲載し、賛助会員の皆様には、年4回ご自宅まで郵送、いち早く情報提供しています。ぜひ賛助会員にご入会下さいますよう、お願いいたします。

賛助個人会員 年会費 ー□ 5,000円
賛助法人会員 年会費 ー□ 20,000円

あともがき

●5月28日(火)に開催した「スウェーデン・セミナー」では、3名の講師にスウェーデンの現状と、日本とスウェーデンのこれからについてご講演いただきました。スウェーデンの今から学べることや、日本とスウェーデンでこれからどんなことができるか…みんなで考えていきたいですね。

●毎年スウェーデンから工芸作家を招聘して、SCFで創作活動をしてもらうプログラム「アーティスト・イン・レジデンス」。今年は6月から5週間の予定で、南部のエーランド島でガラス工芸作家として活躍されているロベルト・オルデルゴーデン氏が来日しています。氏の作品は9月30日までSCFセンターホールで展示予定ですので、どうぞお越しください！